

新国立A案に決定



発行所
山形新聞社
 山形市旅籠町2-5-12
 電話 代表023 (622) 5271
 Copyright (c) 2015
 Yamagata Shimbun

2015年
 12月22日
 <火曜日>

**電子
 速報版**

やましん **e** 聞

特別号外

■やまがた
 ニュースオンライン
yamagata-np.jp

■携帯・スマホ
yamagata-np.jp/mobile/



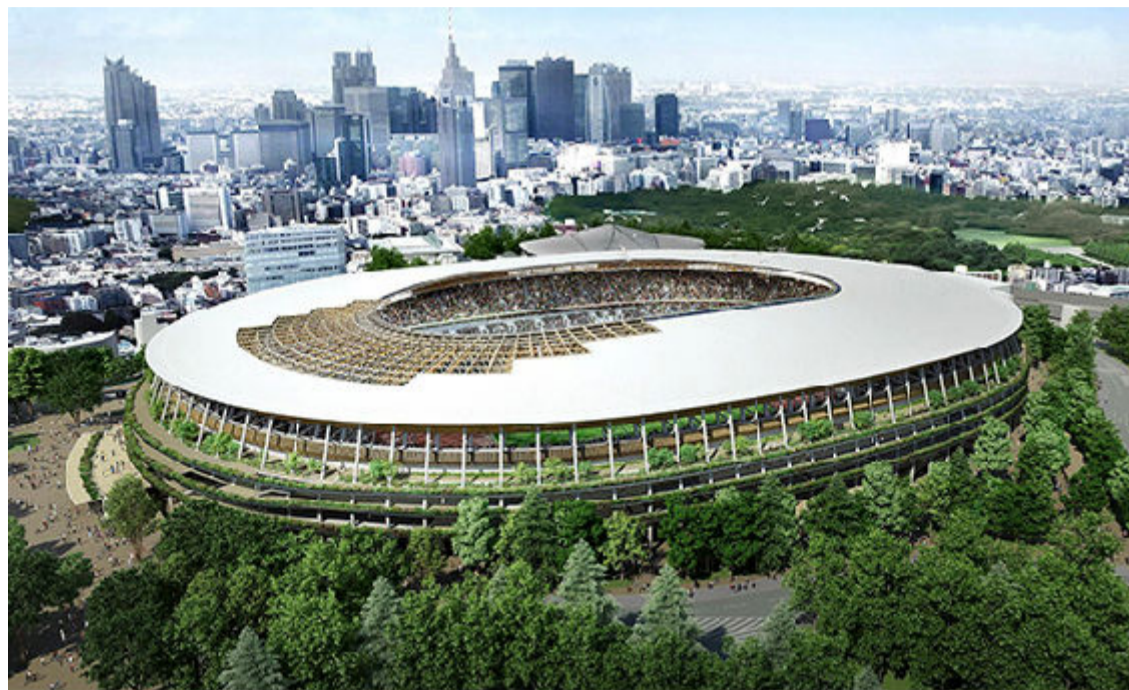
詳しくは山形新聞を
 ご覧ください。

隈研吾氏 デザイン 日本伝統「垂木」が特徴

2020年東京五輪・パラリンピックのメインスタジアム、新国立競技場の新たな建設計画を担う設計・施工業者の選定で政府は22日、関係閣僚会議を開き、応募2案から日本の伝統建築に用いられる「垂木」を想起させるひさしが特徴で、建築家の隈研吾（くま・けんご）氏が手掛けたA案の採用を決めた。

提案したのは隈氏と大成建設などのグループ。総工費は約1490億円、完成時期は国際オリンピック委員会（IOC）が求める20年1月より早い19年11月。「大会のシンボル」の建設計画は、ザハ・ハジド氏による旧デザインとの総工費が2651億円に膨れあがり、7月に白紙撤回となった混乱を経てようやく決まった。

総工費約1497億円のB案は竹中工務店、清水建設、大林組の3社と建築家の伊東豊雄氏が提案したとみられる。



新国立競技場の新たな建設計画で、公表されたA案のイメージ図（技術提案書よりJSC提供）

新国立競技場建設計画(A案)	
収容人数	■約6万8000人
建築面積	■7万2406m ²
高さ	■49.2m
総工費	■約1490億円
完成時期	■2019年11月末
主な施工業者、建築家	■大成建設、隈研吾氏

購読・試読のお申し込みは▶
 フリーダイヤル **0120-81-8040**